

二〇〇二年度（平成十四年度） 博士論文 『孫子』の構造と編纂過程」 附表

立命館大学大学院 文学研究科 東洋文学思想専攻 石井真美子

附表

凡例

- 一、この表は『孫子』十三篇を篇ごとに分章を加え（第一欄・大文字アルファベットで示したもの）、また對句など字句の配置状況及び前後のつながりにより、さらに文を分けた（第二欄・数字で示したもの）ものである。章の區切り方は郭化若氏『孫子譯注』（上海古籍出版社、一九八四年）、楊丙安氏『孫子十一家注校理』（中華書局、一九九九年）を参考にした。
- 二、文の構成と竹簡との異同状況を分かりやすくするために、對になっている句は出来る限り横に並べて表示した。
- 三、第三欄「現行本」は底本に平津館叢書本『魏武帝註孫子』（『孫子集成』齊魯書社、一九九三年所收本）を使用した。
- 四、また第三欄では、東京靜嘉堂文庫藏本『武經七書』（同前『孫子集成』所收の『續古逸叢書』影印本）との異同箇所を、異字は○、赤字は（）、増補は△で示した。上海圖書館藏本『宋本十一家注孫子』（同前『孫子集成』所收の中華書局影印本）との異同箇所を、異字は□、赤字は〔、増補は◀で示した。
- 五、第四欄「竹簡」は、簡の配次はすべて文物出版社一九八五年本『銀雀山漢墓竹簡（壹）』に従い、数字は簡番號、小文字アルファベットの區切りは＝で示した。
- 六、また第四欄「竹簡」の文字は、『銀雀山漢墓竹簡（壹）』の摹本を参考にし、判讀できない文字は□で表し（整理小組が推測しているものは注記した）、古體字や假字と思われる字でも改めなかった。現行本との異同は、**■**、異なる部分は**ゴシック體**で、現行本に有って竹簡に無い字は**【】**で示した。
- 七、第五欄「内容」には、各章の内容を要約して示した。

章文	現行本	竹簡 (1の背に「計」の篇題有り)	内容
A 1	孫子曰、兵者、國之大事、死生之地、存亡之道、不可不察也。	日、兵者、國之大事也、死生之地、存亡之道、不可不察也。	兵とは國の大事である 勝敗を計る要素
B 2	故經之以五事、校之以計、而索其情。一曰道、二曰天、三曰地、四曰將、五曰法。道者、令民與上同意、可與之死、可與之生、而不畏危也。天者、陰陽寒暑時制也。地者、遠近險易廣狹死生也。將者、智信仁勇嚴也。法者、曲制官道主用也。凡此五者、將莫不聞、知之者勝、不知者不勝。故校之以計、而索其情。曰、主孰有道、將孰有能、天地孰得、法令孰行、兵衆孰強、士卒孰練、賞罰孰明、吾以此知勝負矣。	故經之以五【事】、效之以計、以索其情。一曰道、二曰天、三曰地、四曰將、五曰法。道者、令民與上同意者也、故可與之死、可與之生、民弗詭也。天者、陰陽寒暑時制也。順逆兵勝也。地者、高下遠近險易廣狹死生也。將者、知曲制官道主用也。凡此五者、計、用之必勝、賞罰孰明、吾以此知勝負。	計を用いられるのなら留まる 勢を計の佐けとする 兵とは詭道である 敵に偽りを示す 敵を動かす
C 3	將聽吾計、用之必勝、留之。將不聽吾計、用之必敗、去之。	計、用之必勝、賞罰孰明、吾以此知勝負。	計を用いられるのなら留まる
D 4	計利以聽、乃爲之勢、以佐其外。勢者、因利而制權也。		勢を計の佐けとする
E 5	兵者、詭道也。		兵とは詭道である
F 6	故能而示之不能、用而示之不用、遠而示之近。	用而視之不用、近而視之遠、(遠?)而視之近。	敵に偽りを示す 敵を動かす
G 7	利而誘之、亂而取之、實而備之、強而避之、怒而撓之、卑而驕之、佚而勞之、親而離之。	利而誘之、亂而取之、實而備之、強而避之、怒而撓之、卑而驕之、佚而勞之、親而離之。	敵を動かす
H 8	攻其無備、出其不意。	攻其無備、出其不意。	敵の虚を突く
I 9	此兵家之勝、不可先傳也。	此兵家之勝、不可先傳也。	兵家のやり方は伝えられない
J 10	夫未戰而廟筭勝者、得筭多也。未戰而廟筭不勝者、得筭少也。多筭勝、少筭不勝、而況於無筭乎。吾以此觀之、勝負見矣。	夫未戰而廟筭勝者、得筭多也。未戰而廟筭不勝者、得筭少也。多筭勝、少筭不勝、而況於無筭乎。吾以此觀之、勝負見矣。	廟算して算の多いものが勝つ

章文	現行本	竹簡 (9の背に「作戦」の篇題有り)	内容
A 1	孫子曰、凡用兵之法、馳車千駟、 革車千乘、 帶甲十萬、 千里饋糧、 日費千金、 內外之費、 賓客之用、 膠漆之材、 車甲之奉、	孫子曰、凡用兵之法、馳□千駟、 革車□乘、 帶甲□萬、 里而饋糧、 日□□□、 車甲之奉、 則內 ⁹ 外 ^d	兵には費用がかかる
B 2	其用戰也勝、久則鈍兵挫銳、 攻城則力屈、 久暴師則國用不足、 夫鈍兵挫銳、屈力殫貨、 則諸侯乘其弊而起、 雖有智者、不能善其後矣。	用戰【也】勝、久則頓 ¹⁰ 【有】知者、不能善其後矣。 起、	持久戦の害
C 3	故兵聞拙速、未覩巧之久也。 夫兵久而國利者、未之有也。	故不盡於知用兵 ¹² 【未之】有也。	兵の利害を知るべき
D 4	善用兵者、役不再籍、 糧不三載、 取用於國、 因糧於敵、故軍食可足也。	糧於敵 ¹³ 食可足也。	食糧は現地調達する
E 5	國之貧於師者遠輸、遠輸則百姓貧、 近師者貴賣、貴賣則百姓財竭、財竭則急於丘役。	國之貧於師者遠輸、 近師者貴賣、 遠者遠輸？ 則百姓貧、 貴賣、 則百姓財竭、 財竭則急於丘役。	遠征すると費用がかかる
F 6	力屈(財殫)、中原内虚於家。 百姓之費、十去其七。 公家之費、破車罷馬、 甲冑矢 ¹⁴ 、 戟楯 ¹⁴ 、 丘牛大車、十去其六。	力屈財殫、 中原内虚於家。 百姓之費、十去其七。 公家之費、破車罷馬、 甲冑矢 ¹⁴ 、 戟楯 ¹⁴ 、 丘牛大車、十去其六。	貧困の害
G 7	故智將務食於敵、食敵一鍾、當吾二十鍾、 食糶一石、當吾二十石。	故殺敵 ¹⁶ 石。	食糧は現地調達する
H 8	故殺敵者、怒也、 取敵之利者、貨也。	故殺敵 ¹⁶	兵の原動力
I 9	車戰得車十乘以上、賞其先得者、而更其旌旗、 車雜而乘之、 卒善而養之、是謂勝敵而益強。	車戰得車十乘以上、 賞其先得者、而更其旌旗、 車雜而乘之、 卒善而養之、是謂勝敵而益強。	敵の車や捕虜も使用する
J 10	故兵貴勝、不貴久。	故 ¹⁸	持久戦は避ける
K 11	故知兵之將、民之司命、國家安危之主也。	故 ¹⁸	兵を知る將は重要である

章文	現行本	竹簡 (篇題無し)	内容
A 1	孫子曰、 <u>天</u> 用兵之法、全國爲上、破國次之、全軍爲上、破軍次之、全旅爲上、破旅次之、全卒爲上、破卒次之、全伍爲上、破伍次之。		戦わずに敵を屈するのが善の善
2	是故百戰百勝、非善之善者也。不戰而屈人之兵、善之善者也。		攻城は已を得ないと
B 3	故上兵伐謀、其次伐交、其次伐兵、其下攻城。攻城之法、爲不得已。		攻城の害
C 4	修櫓轆轤、具器械、三月而後成。距堙、又三月而後已。將不勝其忿而蟻附之、殺士三分之一、而城不拔者、此攻之災也。故善用兵者、屈人之兵、而非戰也、拔人之城、而非攻也、毀人之國、而非久也。必以全爭於天下、故兵不頓、而利可全、此謀攻之法也。		戦上手は戦わずに敵を屈する
D 5	(故)用兵之法、十則圍之、五則攻之、倍則分之、不若則能避之。故小敵之堅、大敵之擒也。夫將者、國之輔也、輔周則國必強、輔隙則國必弱。		將は國の輔である
E 6	故君之所以患於軍者三。不知軍之不可以進、而謂之進。不知軍之不可以退、而謂之退。是謂糜軍。不知三軍之事、而同三軍之政、則軍士惑矣。不知三軍之權、而同三軍之任、則軍士疑矣。三軍既惑且疑、則諸侯之難至矣、是謂亂軍引勝。故知勝有五。知可以與戰不可以與戰者勝、識衆寡之用者勝、上下同欲者勝、以虞待不虞者勝、將能而君不御者勝。此五者、知勝之道也。故曰、知彼知己、百戰不殆。不知彼而知己、一勝一負。不知彼、不知己、每戰必敗。		敵味方の数による對處
F 7	夫將者、國之輔也、輔周則國必強、輔隙則國必弱。		君主が軍にはならないこと
G 8	故君之所以患於軍者三。不知軍之不可以進、而謂之進。不知軍之不可以退、而謂之退。是謂糜軍。不知三軍之事、而同三軍之政、則軍士惑矣。不知三軍之權、而同三軍之任、則軍士疑矣。三軍既惑且疑、則諸侯之難至矣、是謂亂軍引勝。故知勝有五。知可以與戰不可以與戰者勝、識衆寡之用者勝、上下同欲者勝、以虞待不虞者勝、將能而君不御者勝。此五者、知勝之道也。故曰、知彼知己、百戰不殆。不知彼而知己、一勝一負。不知彼、不知己、每戰必敗。		勝敗を知る要素
H 9	故曰、知彼知己、百戰不殆。不知彼而知己、一勝一負。不知彼、不知己、每戰必敗。		敵と味方を知ることが大切
I 10	故曰、知彼知己、百戰不殆。不知彼而知己、一勝一負。不知彼、不知己、每戰必敗。		敵と味方を知ることが大切

章文		現行本													竹簡（甲）（28の背に「刑」の篇題有り）	内容				
G	F	E			D	C				B		A								
17	16	15			14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1		
勝者之戰、若決積水於千仞之谿者、形也。	故勝兵若以鎰稱銖、 敗兵若以銖稱鎰。	兵法、一曰度、 二曰量、 三曰數、 四曰稱、 五曰勝。	地生度、 度生量、 量生數、 數生稱、 稱生勝。	善用兵者、修道而保法、故能爲勝敗之政。	是故勝兵先勝而後求戰、 敗兵先戰而後求勝。	故善戰者、立於不敗之地、而不失敵之敗也。	故其戰勝不忒、 不忒者、其所措勝、勝已敗者也。	故善戰者之勝也、無智名、 無勇功。	古之所謂善戰者、勝於易勝者也。	故舉秋毫不爲多力、 見日月不爲明目、 聞雷霆不爲聰耳。	戰勝而天下曰善、非善之善者也。	見勝不過衆人之所知、非善之善者也。 戰勝而天下曰善、非善之善者也。	故能自保而全勝也。	善守者、藏於九地之下、 善攻者、動於九天之上。	守則不足、攻則有餘。	不可勝者、守也。 可勝者、攻也。	故曰、勝可知、而不可爲。	故善戰者、能爲不可勝、不能使敵之【必】可勝。	孫子曰、昔之善戰者、 先爲不可勝、以待敵之可勝、 不可勝在己、可勝在敵。	現行本
稱勝者之戰民也、如決積水於千	【故】勝兵如以油稱朱 敗兵如以朱稱油。	【兵法】法、一曰度、 二曰量、 三曰數、 四曰稱、 五曰勝。	【地】生稱、 【量】生數、 【數】生稱、 【稱】生勝。	故善用【兵】者、修道□□法、故能爲勝敗【之】正。	□□敗□□而後求勝。	□□勝□□後求戰、 不貸□□、	故其【戰】勝不貸、 不貸□□、	故善【戰】者之戰、無奇、無智名、 無勇功。	【古】之所謂善【戰】者、勝於【易】勝者也。	【故】舉□□力、 視□□日月不爲明目、 聞雷霆不爲□□耳。	□□衆人之所知、非善、非□□也。	□□	善善守者、藏□□地之下、 【善】攻者、動於九□□。	守則不足、攻則有餘。	不可勝者、守也。 可勝者、攻也。	故曰、勝可智、不可爲也。	故善【戰】者、 不可勝在己、可勝在適。 使適【之】必可勝。	●孫子曰、昔之善戰者、 先爲不可勝、以待適之可勝、 不可勝在己、可勝在適。	竹簡（甲）（28の背に「刑」の篇題有り）	
勝者は形を利用する	勝者は先に勝つ立場にいる	兵の勝敗の要素			勝者は勝敗の決定権を握る					勝者は先に勝つ立場にいる	見える勝ち方は最善ではない							勝を決めるのは守と攻である	内容	

章文		現行本		竹簡（乙）		内容																									
G 17	F 16	E 15	D 14	C		B		A																							
				13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1															
<p>勝者之戰、若決積水於千仞之谿者、形也。</p>		<p>故勝兵若以鎰稱銖、敗兵若以銖稱鎰。</p>		<p>兵法、一曰度、二曰量、三曰數、四曰稱、五曰勝。</p>		<p>善用兵者、修道而保法、故能為勝敗之政。</p>		<p>是故勝兵先勝而後求戰、敗兵先戰而後求勝。</p>		<p>故其戰勝不忒、不忒者、其所措勝、勝已敗者也。</p>		<p>故善戰者、立於不敗之地、而不失敵之敗也。</p>		<p>故其戰勝不忒、無勇功。</p>		<p>古之所謂善戰者、勝於易勝者也。</p>		<p>故善戰者之勝也、無智名、無勇功。</p>		<p>見勝不過衆人之所知、非善之善者也。戰勝而天下曰善、非善之善者也。</p>		<p>故舉秋毫不為多力、見日月不為明目、聞雷霆不為聰耳。</p>		<p>守則不足、攻則有餘。</p>		<p>不可勝者、守也。可勝者、攻也。</p>		<p>故曰、勝可知、而不可為。</p>		<p>故善戰者、能為不可勝、不能使敵之【必】可勝。</p>	
<p>勝者之戰、若決積水於千仞之谿者、形也。</p>		<p>【故】勝兵如以油稱朱、敗兵如以朱稱油。</p>		<p>【兵法】法、一曰度、二曰量、三曰數、四曰稱、五曰勝。</p>		<p>善用兵者、修道而保法、故能為勝敗之政。</p>		<p>是故勝兵先勝而後求戰、敗兵先戰而後求勝。</p>		<p>故其戰勝不忒、不忒者、其所措勝、勝已敗者也。</p>		<p>故善戰者、立於不敗之地、而不失敵之敗也。</p>		<p>故其戰勝不忒、無勇功。</p>		<p>古之所謂善戰者、勝於易勝者也。</p>		<p>故善戰者之勝也、無智名、無勇功。</p>		<p>見勝不過衆人之所知、非善之善者也。戰勝而天下曰善、非善之善者也。</p>		<p>守則不足、攻則有餘。</p>		<p>不可勝者、守也。可勝者、攻也。</p>		<p>故曰、勝可知、而不可為。</p>		<p>故善戰者、能為不可勝、不能使敵之【必】可勝。</p>			
<p>勝者は形を利用する</p>		<p>勝者は先に勝つ立場にいる</p>		<p>兵の勝敗の要素</p>		<p>勝者は勝敗の決定権を握る</p>		<p>勝者は先に勝つ立場にいる</p>		<p>勝者は先に勝つ立場にいる</p>		<p>見える勝ち方は最善ではない</p>		<p>勝を決めるのは守と攻である</p>		<p>勝を決めるのは守と攻である</p>															

J		I		H	G	F	E	D	C		B	A	章文	
14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
故善戰人之勢、如轉圓石於千仞之山者、勢也。	任勢者、其戰人也、如轉木石、木石之性、安則靜、危則動、方則止、圓則行。	故善戰者、求之於勢、不責於人、故能擇人而任勢。	以利動之、以本待之。	故善動敵者、形之、敵必從之。 弱生於強、形也。	亂生於治、治亂、數也。 怯生於勇、勇怯、勢也。 弱生於強、強弱、形也。	紛紜、亂、而不可亂。 渾渾沌沌、形圓、而不可敗。	勢如彊弩、節如發機。	故善戰者、其勢險、其節短。	激水之疾、至於漂石者、勢也。 鷲鳥之疾、至於毀折者、節也。	奇正相生、如循環之無端、孰能窮之哉。	終而復始、日月是也。 死而更生、四時是也。	凡戰者、以正合、以奇勝。	孫子曰、凡治衆如治寡、分數是也。 關衆如關寡、形名是也。 三軍之衆、可使必受敵而無敗者、奇正是也。 兵之所加、如以礮投卵者、虛實是也。	現行本
	木石之生、安則靜、危則動、方則止、圓則行。 ※整理小組は「則」とする	故善戰者、求之於勢、不責於人、故能擇人而任勢。	以此動之、以卒待之。	【故】善動敵者、形之、適必從之。 弱生於強、強弱、形也。	亂生於治、治亂、數也。 怯生於勇、勇怯、勢也。 弱生於強、強弱、形也。	可敗。		【激】水之疾、至於漂石者、勢也。 鷲鳥之疾、至於毀折者、節也。	奇正相生、如循環之無端、孰能窮之哉。	冬而復始、日月是也。 無謂如江海。	窮如天地、無謂如江海。	【孫】子曰、凡治衆如治寡、分數是也。 關衆如關寡、形名是也。 三軍之衆、可使必受敵而無敗者、奇正是也。 兵之所加、如以礮投卵者、虛實是也。	竹簡 (47の背に「勢」の篇題有り)	
		勢を兵に利用する		敵を動かす	混乱の要素	い	混乱してはいけな	勢と節の説明	勢と節について	勢と節の説明	奇と正の形容	戦には正と奇を使う	兵の要素の説明	内容

章文	現行本	竹簡 (53の背に「實虚」の篇題有り)	内容
A 1	孫子曰、凡先處戰地而待敵者佚、後處戰地而趨戰者勞。	【孫】子【曰】、凡先處戰地而待戰者佚、後處戰地而趨戰者勞。	戰地に先に着いた方が有利
B 2	故善戰者、致人而不致於人。	故善戰者、致人而不致於人。	人を動かす人に動かされない
C 3	能使敵人不至者、利之也。能使敵人不得至者、害之也。	能使敵人不至者、利之也。	敵を動かすのは利害による
D 4	故敵佚能勞之、飽能飢之、安能動之。	飽能飢之者、安能動之。	敵を動かす
E 5	出其不趨、行千里而不勞者、趨其所不意。行於無人之地也。	出於云所必無、行千里而不畏、行於無人之地也。	敵の虚を突く
F 6	攻而必取者、攻其所不守也。守而必固者、守其所不攻也。	攻而必取者、守云所必固者、守其所不攻也。	敵の知らないところを攻める
G 8	微乎微乎、至於無形。神乎神乎、至於無聲、故能為敵之司命。	故能為適之司命。	敵の司命になる
H 10	故我欲戰、敵雖高壘深溝、不得不與我戰者、攻其所必救也。我不欲戰、雖畫地而守之、敵不得與我戰者、乖其所之也。	故善將者刑人而我无刑、我樽而為壹、適分而為十、是以十擊其壹也。	主導権を握る攻守の在り方
I 11	故形人而我無形、則我專而敵分。我專為一、敵分為十、是以十攻其一也。	故善將者刑人而我无刑、我樽而為壹、適分而為十、是以十擊其壹也。	無形ならば敵を分けられる
J 13	故備前則後寡、備後則前寡、備左則右寡、備右則左寡。	故備前則後寡、無所不備、則无所不寡。	戰地を知らなければ分けられてしまう
K 15	故知戰之地、知戰之日、則可千里而會戰。不知戰地、不知戰日、則左不能救右、右不能救左、前不能救後、後不能救前、而況遠者數十里、近者數里乎。	【故】知戰之地、知戰之日、則可千里而會戰。【不】知戰之地、【不】知戰之日、【則】左不能救右、【則】右不能救左、【前】不能救後、【後】不能救前、【而】皇遠者數十里、近者數里乎。	戰地と戦日を知るべきである
L 16	以吾度之、越人之兵雖多、亦奚益於勝哉。	勝哉。	越兵が多ても勝は為ること
M 17	故曰、勝可為也。	故曰、勝可擅也。	勝は為ること
N 18	敵雖衆、可使無鬪。	敵雖衆、可使毋鬪也。	敵が多くても勝てる
O 19	故策之而知得失之計、作之而知動靜之理、形之而知死生之地、角之而知有餘不足之處。	故計之而知得失之計、續之而知動靜之理、形之而知死生之地、角之而知有餘不足之處。	兵に必要な知識

Q			P			
26	25	24	23	22	21	20
<p>故五行無常勝、 四時無常位、 月有死生。</p>	<p>故兵無常勢、 水無常形。 能因敵變化而取勝者、謂之神。</p>	<p>夫兵形象水、水之形、避高而趨下、 兵之形、避實而擊虛。 水因地而制流、 兵因敵而制勝。</p>	<p>故其戰勝不復、而應形於無窮。</p>	<p>人皆知我所以勝之形、 而莫知吾所以制勝之形。</p>	<p>因形而措勝於衆、衆不能知。</p>	<p>故形兵之極、至於無形。 無形、則深間不能窺、 智者不能謀。</p>
<p>【故】五行无恒勝、 四時^{67a}常立、 月有死生。 ●神要^{67b}</p>	<p>【故】兵无成勢、 【水】无恒形。 能與敵變化而【取】勝者、【冒】之神。</p>	<p>兵^{65b}刑象水、水行形、辟高而走下、 兵勝形、辟實而擊虛。 【故】^{66a}水因地而制行、 兵因敵而制勝。</p>	<p>【而】不^{65a}制刑所以勝者、</p>	<p>因刑而錯勝^{64c}</p>	<p>【故】刑兵之極、至於无刑。 （无刑？）、則深間弗能規也。^{64a} 知者弗能謀也。^{64b} ※重文記號があつた可能性あり</p>	<p>兵の形の極は、 無形で人には わからない</p>
		<p>無形は窮りが 無い</p>				

G		F	E	D		C	B		A	章文			
11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1			
<p>善用兵者、避其銳氣、擊其惰歸、此治氣者也。</p> <p>是故朝氣銳、晝氣惰、暮氣歸。</p>	<p>三軍可奪氣、將軍可奪心。</p>	<p>故夜戰多鼓、晝戰多旌旗、所以變人之耳目也。</p> <p>夫金鼓旌旗者、所以一人之耳目也。人既專一、則勇者不得獨進、怯者不得獨退、此用衆之法也。</p>	<p>先知迂直之計者勝、此軍爭之法也。</p> <p>軍政曰、言不相聞、故爲之金鼓。視不相見、故爲之旌旗。</p>	<p>故其疾如風、掠鄉分衆、其徐如林、廓地分利、侵掠如火、懸權而動。不動如山、難知如陰、動如雷震。</p>	<p>故兵以詐立、以利動、以分合爲變者也。</p>	<p>故不知諸侯之謀者、不能豫交。不知山林險阻沮澤之形者、不能行軍。不用鄉導者、不能得地利。</p>	<p>是故軍無輜重則亡、無糧食則亡、無委積則亡。</p>	<p>百里而爭利、則擒三將軍、勁者先、疲者後、其法十一而至。五十里而爭利、則蹶上將軍、其法半至。三十里而爭利、則三分之二至。</p>	<p>軍爭爲利、衆爭爲危。</p> <p>舉軍而爭利、則不及。委軍而爭利、則輜重捐。是故卷甲而趨、日夜不處、倍道兼行、</p>	<p>孫子曰、凡用兵之法、將受命於君、合軍聚衆、交和而舍、莫難於軍爭。軍爭之難者、以迂爲直、以患爲利。</p> <p>故迂其途、而誘之以利、後人發、先人至、此知迂直之計者也。</p>	現行本	竹簡 (篇題無し)	<p>機先を制するものは迂直の計である</p> <p>機先を制することの難しさ</p>
<p>■ 用兵者、辟二兌氣</p> <p>■ 氣者</p>	<p>■ 將軍可奪心。</p>	<p>是故夜戰多鼓金、晝戰多旌旗、所以變人之耳目也。</p> <p>【夫】(金)鼓、旌旗者、所以壹民之耳目也。</p> <p>民壹已搏、勇者不</p> <p>是故夜戰多鼓金、晝戰多旌旗、所以變人之耳目也。</p>	<p>是故軍、視不相見、故爲之旌旗。</p> <p>【夫】(金)鼓、旌旗者、所以壹民之耳目也。</p> <p>民壹已搏、勇者不</p>	<p>■ 難知</p> <p>■ 不動</p> <p>■ 以分合爲變</p> <p>■ 懸權而動</p> <p>■ 分利</p> <p>■ 縣權而動</p>	<p>■ 以分合爲變</p> <p>■ 詐立</p> <p>■ 利動</p>	<p>是故不知諸侯之謀者、不能行軍。</p> <p>※ 整理小組は「不用郷道」</p>	<p>■ 軍母輜重</p> <p>■ 糧食則亡</p> <p>■ 無委積則亡</p>	<p>舉軍而爭利、則不及。委軍而爭利、則輜重捐。是故卷甲而趨、日夜不處、倍道兼行、</p> <p>五十里而爭利、則蹶上將軍、其法半至。三十里而爭利、則三分之二至。</p>	<p>軍爭爲利、衆爭爲危。</p> <p>舉軍而爭利、則不及。委軍而爭利、則輜重捐。是故卷甲而趨、日夜不處、倍道兼行、</p>	<p>而誘之以利、後人發、先人至者、此知迂直之計者也。</p>			

I	H	
14	13	12
<p>故用兵之法、高陵勿向、背丘勿逆、佯北勿從、銳卒勿攻、餌兵勿食、歸師勿遏、圍師必闕、窮寇勿迫、此用兵之法也。</p>	<p>無邀正正之旗、勿擊堂堂之陳、此治變者也。</p>	<p>以治待亂、以靜待譁、此治心者也。以近待遠、以佚待勞、以飽待飢、此治力者也。</p>
<p>【窮】【寇】【勿】【迫】、此用衆之法也。四百六十五 81五</p> <p>【圍】師遺闕、 【歸】師勿遏、 【餌】兵勿食、 【銳】卒勿攻、 【佯】北勿從、 倍丘勿迎、</p>	<p>毋要癩癩之旗、毋擊堂堂之陳、此治變者 80者</p>	<p>以飽待飢、此治力□也。 796 以失勞、遠、</p>
<p>處に對する對</p>	<p>心・力・變を治める</p>	

附表一〇

章文	現行本	竹簡 (篇題無し)	内容
A 1	孫子曰、凡用兵之法、將受命於君、合軍聚衆、圯地無舍、 <u>衢地合交</u> 、絕地無留、圍地則謀、死地則戰。		處地に對する對
B 2	<u>途</u> 有所不由、軍有所不擊、城有所不攻、地有所不爭、君命有所不受。		臨機應變に對處する
C 3	故將通於九變之利者、知用兵矣。將不通九變之利、雖知地形、不能得地之利矣。治兵不知九變之術、雖知五利、不能得人之用矣。		九變の利に通じているべきである
D 4	是故智者之慮、必雜於利害。雜於利而務可信也、雜於害而患可解也。		利害を交えて考える
E 5	是故屈諸侯者以害、役諸侯者以業、趨諸侯者以利。		諸侯を動かすもの
F 6	故用兵之法、無恃其不來、恃吾有所以待之。故將有五危。必死、可殺、必生、可虜、忿速、可侮、廉潔、可辱、愛民、可煩。		味方の状態を恃みにする
G 7	凡此五者、將之過也、用兵之災也。覆軍殺將、必以五危、不可不察也。		將軍について注意點

H		G		F		E	D	C	B		A						章文				
18		17		16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	章文	
<p>半進半退者、誘也。</p> <p>奔走而陳兵者、期也。</p> <p>無約而請和者、謀也。</p> <p>輕車先出居其側者、陳也。</p> <p>辭強而進驅者、退也。</p> <p>辭卑而益備者、進也。</p>		<p>少而往來者、營軍也。</p> <p>散而條達者、樵採也。</p> <p>卑而廣者、徒來也。</p> <p>塵高而銳者、車來也。</p> <p>獸駭者、覆也。</p> <p>鳥起者、伏也。</p> <p>衆草多障者、疑也。</p> <p>衆樹動者、來也。</p>		<p>其所居易者、利也。</p>	<p>遠而挑戰者、欲人之進也。</p> <p>近而靜者、恃其險也。</p>	<p>必謹覆索之、此伏姦之所也。</p> <p>軍旁有險阻、亂井、葦葭、林木、藪薈者、</p>	<p>吾遠之、敵近之。</p> <p>吾迎之、敵背之。</p>	<p>必亟去之、勿近也。</p> <p>凡地有絕澗・天井・天牢・天羅・天陷・天隙、</p> <p>上雨水沫至、欲涉者、待其定也。</p>	<p>而右背之、此兵之利、地之助也。</p> <p>必處其陽、</p> <p>丘陵隄防、</p>	<p>養生處實、軍無百疾、是謂必勝。</p>	<p>凡軍好高而惡下、</p> <p>貴陽而賤陰、</p>	<p>凡四軍之利、黃帝之所以勝四帝也。</p>	<p>平陸處易、</p> <p>右背高、</p> <p>前死後生、此處平陸之軍也。</p>	<p>若交軍於斥澤之中、必依水草、</p> <p>而背衆樹、此處斥澤之軍也。</p>	<p>絕斥澤、唯亟去無留。</p>	<p>無迎水流、此處水上之軍也。</p>	<p>視生處高、</p>	<p>欲戰者、無附於水而迎客。</p> <p>客絕水而來、勿迎之於水內、令半渡而擊之、利。</p>	<p>絕水必遠水。</p>	<p>視生處高、</p> <p>孫子曰、凡處軍相敵、絕山依谷、</p> <p>戰降無登、此處山之軍也。</p>	<p>現行本</p>
<p>半進半退者、誘也。</p> <p>奔走而陳兵者、期也。</p> <p>無約而請和者、謀也。</p> <p>輕車先出居其側者、陳也。</p> <p>辭強而進驅者、退也。</p> <p>辭卑而益備者、進也。</p>		<p>軍者也。</p>		<p>敵近而口者、恃其險也。</p> <p>敵遠而口者、進者也。</p>	<p>【必】謹復索之、【此】伏姦之所處也。</p> <p>葦、小林、藪薈者、可伏匿者</p>	<p>必亟去之、勿近之。</p> <p>遠之、敵近之。</p>	<p>上雨水水流至、止涉者、待其定也。</p> <p>而右背之、此兵之利、地之助也。</p>	<p>丘陵隄防、</p> <p>處其陽、</p> <p>無百疾【是】謂【必】勝。</p>	<p>凡四軍之利、黃帝之</p>	<p>死後生、此處平陸</p>	<p>交軍【於】斥澤之中、</p> <p>必依</p>	<p>此處水上之軍</p>	<p>視生處高、</p>	<p>欲戰者、無附於水而迎客。</p> <p>客絕水而來、勿迎之於水內、令半渡而擊之、利。</p>	<p>絕水必遠水。</p>	<p>視生處高、</p> <p>孫子曰、凡處軍相敵、絕山依谷、</p> <p>戰降無登、此處山之軍也。</p>	<p>竹簡(篇題無し)</p>				
<p>敵の様子で意圖を察する</p>		<p>周囲の状況から敵の動きを察する</p>		<p>敵の様子で意圖を察する</p>	<p>茂みや森には氣をつける</p>	<p>危険な地形</p>	<p>雨の時は水が定まつてから渡る</p>	<p>駐屯地にするべき</p>							<p>駐屯地に對する注意</p>						

章文		内容	
<p>孫子曰、地形有通者、有[掛]者、有支者、有隘者、有險者、有遠者。我可以往、我可以來、曰通。通形者、先居高陽、利糧道、以戰則利。難以返、曰[掛]。[掛]形者、敵無備、出而勝之。敵若有備、出而不勝、難以返、不利。我出而不利、彼出而不利、曰支。支形者、敵雖利我、我無出也。引而去之、令敵半出而擊之、利。隘形者、我先居之、必盈之以待敵。險形者、我先居之、盈而勿從、不盈而從之。遠形者、勢均、難以挑戰、戰而不利。 凡此六者、地之道也、將之至任、不可不察也。</p>		<p>地形の種類と對應</p>	
<p>故兵有走者、有弛者、有陷者、有崩者、有亂者、有北者。凡此六者、非[地]之災、將之過也。夫勢均、以一擊十、曰走。卒強吏弱、曰弛。將弱不嚴、將不能料敵、吏強卒弱、曰陷。 教道不明、以少合衆、大吏怒而不服、 吏卒無常、以弱擊強、遇敵對而自戰、將不知其能、曰崩。 陳兵縱橫、曰亂。 兵無選鋒、曰北。凡此六者、敗之道也、將之至任、不可不察也。</p>		<p>軍隊が陥る悪い状況</p>	
<p>夫地形者、兵之助也。料敵制勝、計險阨遠近、上將之道也。知此而用戰者必勝。不知此而用戰者必敗。</p>		<p>地形を兵の助けとして勝を制する</p>	
<p>故戰道必勝、主曰無戰、必戰可也。戰道不勝、主曰必戰、無戰可也。故進不求名、退不避罪、唯[民]是保、而利於主、國之寶也。</p>		<p>このような將は國の寶である</p>	
<p>視卒如嬰兒、故可與之赴深谿。視卒如愛子、故可與之俱死。</p>		<p>兵卒への接し方</p>	
<p>[愛]而不能[合]、[厚]而不能[使]、亂而不能治、譬[如]驕子、不可用也。</p>		<p>敵と味方を知るものが勝つ</p>	
<p>知吾卒之可以擊、而不知敵之不可擊、勝之半也。知敵之可擊、而不知吾卒之不可以擊、勝之半也。知敵之可擊、知吾卒之可以擊、而不知地形之不可以戰、勝之半也。</p>		<p>兵を知る者は迷わない</p>	
<p>故知兵者、動而不迷、舉而不窮。</p>		<p>敵と味方を知ることが重要</p>	
<p>故曰、知彼知己、勝乃不殆。知天知地、勝乃可全。</p>		<p>敵と味方を知ることが重要</p>	

L	K	J	I	H					G			
26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14
<p>是故不知諸侯之謀者、不能豫交。 不知山林險阻沮澤之形者、不能行軍。 不用鄉導者、不能得地利。</p>	<p>故兵之情、圍則禦、不得已則鬪、過則從。</p>	<p>死地、吾將示之以不活。 圍地、吾將塞其闕。 圯地、吾將進其途。 重地、吾將繼其食。 衢地、吾將固其結。 交地、吾將謹其守。 爭地、吾將趨其後。 輕地、吾將使之屬。 是故散地、吾將一其志。 無所往者、死地也。 背固前隘者、圍地也。 入淺者、輕地也。 入深者、重地也。 四通者、衢地也。 去國越境而師者、絕地也。</p>	<p>凡爲客之道、深則專、淺則散。</p>	<p>人情之理、不可不察也。</p>	<p>九地之變、屈伸之利、</p>	<p>聚三軍之衆、投之於險、此將軍之事也。</p>	<p>帥與之期、如登高而去其梯。 帥與之深、入諸侯之地而發其機。</p>	<p>能愚士卒之耳目、使之無知。 易其事、革其謀、使人無識。 易其居、迂其途、使人不得慮。</p>	<p>將軍之事、靜以幽、正以治。</p>	<p>故善用兵者、攜手若使一人、不得已也。 是故方馬理輪、未足恃也。 齊勇若一、政之道也。 剛柔皆得、地之理也。</p>	<p>敢問、可使如率然乎。 曰、可。夫吳人與越人相惡也、當其同舟濟而遇風、其相救也如左右手。</p>	<p>故善用兵者、譬如率然。 率然者、常山之蛇也。 擊其首則尾至、擊其尾則首至、擊其中則首尾俱至。</p>
<p>利。</p>	<p>■侯之請、還則禦、不得已則鬪、過則從。 127 b</p>	<p>死地^{127 a}、吾將示之以不活。 圍地^{127 d}、吾將塞其闕。 圯地^{126 b}、吾將進其途。 重地^{126 a}、吾將繼其食。 衢地^{126 c}、吾將固其結。 交地^{126 e}、吾將謹其守。 爭地^{126 f}、吾將趨其後。 輕地^{124 a}、吾將使之屬。 是故散地^{124 b}、吾將一其志。 無所往者^{124 c}、死地也。 背固前隘者^{124 d}、圍地也。 入淺者^{123 a}、輕地也。 入深者^{123 b}、重地也。 四通者^{123 c}、衢地也。 去國越境而師者^{123 d}、絕地也。</p>	<p>凡爲^{122 b}、 淺則散。</p>	<p>人請之理、不可不察也。 122 a</p>	<p>■變、</p>	<p>若敵羣^{121 a}</p>	<p>入諸侯之地而發其機。 120 c</p>	<p>易事^{120 a}、 易其居^{120 b}、 于^{120 c}、 使民不得^{120 d}</p>	<p>將軍之^{119 a}、 之耳目、使之無知。 【無知】 ※整理小組は「其」とする</p>	<p>齊勇若^{118 a}、 已也。 118 b</p>	<p>敢問、則可使若衛然乎。 曰、可。夫^{117 a}、 【夫】^{117 b}、 【其】^{117 c}、 117 d</p>	<p>故善用軍者、辟如衛然。 衛然者、恒山之^{116 a}</p>
<p>兵に必要な知識</p>	<p>兵とはこのようなものである</p>	<p>戦地の種類と對處</p>	<p>敵國で戦う場合</p>					<p>兵卒を戦わせる爲の將軍の心得</p>				<p>軍隊をまとめる</p>

P	O	N				M			
		35	34	33	32	31	30	29	28
<p>是故政舉之日、夷關折符、無通其使、 厲於廊廟之上、以誅其事、 敵人開闔、必亟入之、 先其所愛、微與之期、 踐墨隨敵、以決戰事。 是故始如處女、敵人開戶、 後如脫兔、敵不及拒。</p>	<p>是故政舉之日、夷關折符、無通其使、 厲於廊廟之上、以誅其事、 敵人開闔、必亟入之、 先其所愛、微與之期、 踐墨隨敵、以決戰事。 是故始如處女、敵人開戶、 後如脫兔、敵不及拒。</p>	<p>夫衆陷於害、然後能爲勝敗。</p>	<p>投之亡地然後存、 陷之死地然後生。</p>	<p>犯之以事、勿告以言。 犯之以利、勿告以害。</p>	<p>懸無法之賞、 懸無政之令、犯三軍之衆、若使一人。</p>	<p>是故不爭天下之交、 不養天下之權、 威加於敵、 故其城可拔、 其國可隳。</p>	<p>威加於敵、則其交不得合。</p>	<p>夫霸王之兵、伐大國、則其衆不得聚。 威加於敵、則其交不得合。</p>	<p>四五者【不知】、非霸王之兵也。</p>
<p>是故正與□¹³²其使、 厲於郎【廟】¹³²上、以誅六事、 適人開闔、必亟入之、 先六所愛、微¹³³與¹³³ 決戰事。 是故始如處¹³⁴處¹³⁴</p>	<p>是故正與□¹³²其使、 厲於郎【廟】¹³²上、以誅六事、 適人開闔、必亟入之、 先六所愛、微¹³³與¹³³ 決戰事。 是故始如處¹³⁴處¹³⁴</p>	<p>於害、然後能爲【勝】敗。</p>	<p>幸之亡地然而后存、 陷¹³¹於害、然後能爲【勝】敗。</p>	<p>以【利】、勿告以【害】。</p>	<p>【懸】【施】無法之賞、 懸無正之令、犯三¹³⁰</p>	<p>是故不²⁹ 可拔也、 其城可隳也。</p>	<p>威加於敵、則其交不²⁸合。</p>	<p>彼【霸王】之兵、伐大國、則六衆不²⁸ 合。</p>	<p>四五者一不智、非【霸王】之兵也。</p>
	<p>開戰にあたって すること</p>	<p>兵の行動</p>			<p>兵卒を戦わせる</p>			<p>霸王の兵 (理想の兵)</p>	

章文	A 1	B 2	C 3 4		D 7	E 8	F 9
現行本	孫子曰、凡火攻有五。一日火人、二曰火積、三曰火輜、四曰火庫、五曰火隊。	行火必有因、發火有時、煙火必素具。起火有日。時者、天之燥也。日者、月在箕壁翼軫也。凡此四宿者、風起之日也。	火發於內、則早應之於外。火發而其兵靜者、待而勿攻。極其火力、可從而從之、不可從則止。	火發上風、晝風久、無攻下風、夜風止。	凡軍必知五火之變、以數守之。	故以火佐攻者明、以水佐攻者強、水可以絕、不可以奪。	夫戰勝攻取、而不修其功者凶、命曰費留。
竹簡 (135の背に「火攻」の篇題有り)	孫子曰、凡火攻有五。一日火人、二曰火積、三曰火輜、四曰火庫、五曰火隊。	【火】必有因、【火】必有時。起火有日。時者、天者、天者、風起之日也。	【凡】火攻、【必】因【五】火之變而應之。火發而其兵靜者、待而勿攻。極其火力、可從而從之、不可從而從之、止之。	火發上風、晝風久、夜風止。	之變、以數守之。	得、而不隨其功者凶、命之曰費留。	故曰、明主慮之、良將隨之。非利不用、非危不戰。主不可以怒而興軍、將不可以溢而致戰。合乎利而用、不合於利而止。怒可以復喜也、溫可以復說也。
内容	火攻の種類	火攻の準備	火攻の仕方について	火攻の利点	火攻の利点	功の無い勝は意味が無い	明君良將は慎重にすべきである

I 11	H 10	G 9	F 8	7	E 6	5	D 4	C 3	B 2	A 1	章 文	
<p>故明君賢將、能以上智爲間者、必成大功。此兵之要、三軍所恃而動也。</p>	<p>昔殷之興也、伊摯在夏。周之興也、呂牙在殷。</p>	<p>必索敵間之來間我者、因而利之、導而舍之、故反間可得而用也。因是而知之、故鄉間內間可得而使也。因是而知之、故死間爲誑事、可使告敵。因是而知之、故生間可使如期。五間之事、主必知之、知之必在於反間、故反間不可不厚也。</p>	<p>凡軍之所欲擊、城之所欲攻、人之所欲殺、必先知其守將、左右謁者門者舍人之姓名、令吾間必索知之。</p>	<p>間事未發而先開者、間與所告者皆死。</p>	<p>微哉微哉、無所不用間也。</p>	<p>非聖智不能用間、非仁義不能使間、非微妙不能得間之實。</p>	<p>故三軍之事、莫親於間、賞莫厚於間、事莫密於間。生間者、反報也。令吾間知之、而傳於敵間也。因問者、因其鄉人而用之。內問者、因其官人而用之。反間者、因其敵間而用之。死間者、爲誑事於外、</p>	<p>故用間有五。有因間、有內間、有反間、有死間、有生間。五間俱起、莫知其道、是謂神紀、人君之寶也。</p>	<p>故明君賢將、所以動而勝人、成功出於衆者、先知也。先知者、不可取於鬼神、不可象於事、不可驗於度、不可取於人、知敵之情者也。</p>	<p>相守數年、以爭一日之勝、而愛爵祿百金、不知敵之情者、不仁之至也、非人之將也、非主之佐也、非勝之主也。</p>	<p>孫子曰、凡興師十萬、出征千里、百姓之費、公家之奉、日費千金。內外騷動、不得操事者、七十萬家。</p>	<p>現行本</p>
<p>唯明主賢將、</p>	<p>周之興也、呂牙在殷。衛師比在陸。燕之興也、蘇秦在齊。</p>	<p>□問之事、主必知之、不可不厚也。</p>	<p>必先知其守將、左右謁者門者舍人之姓名、令吾間必索知之。</p>	<p>密哉密哉、毋所不用間。</p>	<p>三軍之親、莫親於間、賞莫厚於間、事莫密於間。</p>	<p>非聖智不能用間、非仁義不能使間、非微妙不能得間之實。</p>	<p>生間者、反報也。令吾間知之、而傳於敵間也。因問者、因其鄉人而用之。內問者、因其官人而用之。反間者、因其敵間而用之。死間者、爲誑事於外、</p>	<p>故用間有五。有因間、有內間、有反間、有死間、有生間。五間俱起、莫知其道、是謂神紀、人君之寶也。</p>	<p>知適之請者、不仁之至也、非人之將也、非主之佐也、非勝之主也。</p>	<p>孫子曰、凡興師十萬、出征千里、百姓之費、公家之奉、日費千金。內外騷動、不得操事者、七十萬家。</p>	<p>竹簡(篇題無し)</p>	
<p>間は重要である</p>	<p>例</p>	<p>間の使い方</p>	<p>間を使う際の心得</p>		<p>間の重要さ・難しさについて</p>		<p>間の種類</p>	<p>情報は人間から得る</p>	<p>敵情を知らないものは勝てない</p>	<p>兵には費用がかかる</p>	<p>内容</p>	